

金町駅北口周辺地区 第2回まちづくり勉強会におけるご意見の要旨

《地区の良い点》

項目	ご意見の要旨
地区の状況	・東京理科大学やにいじゅくみらい公園などができ、緑豊かで環境が良くなった。
	・東京理科大学ができたことにより、金町は文教地区というイメージを持たれるようになった。
	・若い世代が増加し子どもも増しており、賑わいがでてきた。
	・下町風情が残っており、また東京理科大学など将来の発展を感じさせる、新旧の要素が揃った街である。
	・歴史や由緒のある葛西神社がある。
	・金町の商店街は、それぞれの店主の人が高齢になっても元気に働いており、そのような中で商店街毎に、まちのカラーが出ている。

《地区の課題》

項目	ご意見の要旨
道路、駅前広場などの都市基盤	・理科大学通りやしょうぶ通りは、歩道に傾斜があり、高齢者にとっては歩きづらく、移動しにくいまちである。
	・理科大学通りは歩道が狭く、車道も2車線しかないため安全性に課題がある。
	・理科大学通りを往来する学生を見る度、いつか事故に遭うのではないかと心配になる。安全第一なまちづくりの検討が必要である。
	・駅北口から北方向を結ぶアクセスが足りていない。
	・金町駅は他の駅に比べて魅力に欠けている。
交通	・歩道を自転車がスピードを出して走っていることがあり、とても危険である。
施設	・女性グループが利用できる施設が少ない。
	・ピアノやコーラスなど習い事を発表するような場がない。
イベント	・葛西神社の例大祭は活気がないため、水元公園だけでなく葛西神社まで含めた検討が必要である。
商店街	・活気のある店舗というのは、客の大半が女性である。女性向けの店舗が少ないため、華やかさや賑わいも生まれにくくなっている。どのように女性客を呼び込んでいくかを考えるべきである。男性客相手ではまちの発展はないと思う。
	・理科大は男子学生の割合が高いため、理科大を当てにするのではなく、他の方法で女性客を増やす工夫が必要である。

《今後のまちづくりに向けて》

項 目	ご意見の要旨
道路や駅前広場などの都市基盤の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者専用道路など安全な空間を作って、そこでも子どもが遊べるようになるまち。 ・北口駅前広場につながる南北方向の道路ができれば、理科大通りの混雑緩和など色々な余裕が生まれ、今までの雰囲気を変えず活性化も図れる。
イベントなどの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生も引き込んだお祭りを催し、地域のつながりや絆が強いまち。 ・葛西神社や半田稲荷神社、しばられ地蔵などの活用も含め高齢者が生活しやすいまち。
商店街の活性化など	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を取り込んだ、他のまちにないような発信力を持つ商店街。 ・日常的な買い物などに利用しやすい現代版の下町商店街。 ・個性ある店舗が並ぶ商店街。 ・商店街のカラーを残したまちづくりが必要である。 ・ちょっとした劇場のようなものができると女性は集まるし、そこに家族が集うことで賑わいが生まれると思う。
地域の連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの課題が明確であるなら、今後、具体的にどのように解決していくか、解決策についてスケジュールとともに話し合える場が必要であり、スピードが大切である。 ・新たに転居してきた人たちにも勉強会に参加してもらい、意見を聞くことが大切であり、新しい人たちと連携を図っていくことが今後重要になってくる。 ・金町地区の持つ強みを認識することが大切であり、自分たちが誇りを持って住むために、地区の(※)アイデンティティをもう一度掘り起こして、みんなで共有することが大切である。 (※アイデンティティ:主に心理学などの分野で使われる用語で、「自己同一性(自分の正体、自己証明)」を意味する。都市計画においては、都市固有の魅力等を意味して使われる。) ・産学官の様々な人たちが集まり、対話ができる環境、仕組みづくりをすることが必要だと思う。
地域まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・東京理科大学と水元公園を活かした、文教地区であり住みやすい街として、若い世代に夢を持たせるまちづくりを進めるべきである。金町には価値を生む要素は非常に揃っており、それを活かしたまちづくりを早期に実現することを願っている。 ・まちづくりニュースを通じて、商店会や自治町会、大学生など様々な人が自分たちの活動などを知ってもらうための媒体がもっと必要である。 ・現在、金町地区は人気がなく、地域間競争に負けてしまっている。下から積み上げていくことも大切だが、上から広く見て周辺都市にどのように勝つか考える目線も必要である。 ・次世代にバトンタッチできるまちを皆でつくっていきたいと思っている。 ・若い世代が増えていることを捉えたまちづくりを考えていくことが大事である。